

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2012.10. October vol.22-1

## 覚悟と決断

### 島根原発と向き合う

9月13日から始まった第4  
37回定例議会は、21日から  
質問戦に入り、私は民主県民ク  
ラブを代表して質問しました。  
様々な課題が山積する中、県  
民と議論を進めていくうえで、  
「リーダーである知事の決断  
と覚悟が必要なとき」という観  
点で質問しました。

昨年の福島原発事故を受け、  
今国民の多くは原発ゼロの社  
会を求めています。しかし、原  
発ゼロの社会を目指してい  
くには、様々な課題があります。  
特に原発立地県であるこの島  
根では、政府がいう40年廃炉

した。  
そしてまた、知事は任期  
後半に向けてどのような  
島根づくりをしていくの  
か、その際にもはつきりと  
して姿勢を示して進める  
ことを求めました。

### 強固な地域経済

リーマンショック以降、  
経済はなかなか立ち直ら  
ない中で、世界の経済動向  
に左右されない強固な地域経  
済を確立していくことが必要  
です。地域の資源を活かしたみ  
んなが参加できる地域産業を  
興し、地域内でお金が回る仕組  
みをつくることで、安定した地  
域社会をつくることができま  
す。そのことが、みんなが安心  
して暮らせる島根をつくるこ  
とになっていくことを述べ、知  
事の政治姿勢について質しま  
した。

### 経済対策の事業効果

リーマンショックによる失  
業者が増大したことを受け、政  
府は経済対策を講じてしまし  
た。島根県でも国から資金を得  
て、基金を積み立て、これを基  
に雇用創出などに取り組みん  
できました。また、福祉や医療、  
環境などの分野の事業が実施  
され、保育所の増設や地域医療  
の充実、介護施設の整備などに  
取り組まれました。



後の原発はその先ず  
つとここにあり、その  
ことにどう向き合っ  
ていくのか、ここに溜  
まってくる使用済み  
燃料の安全性をどう  
保つのか、さらには建  
設中の3号機の稼働  
を認めるのか、これか  
ら議論を進めていく  
ときに、知事も明確な  
意見を表明しなけれ  
ば議論にならない、知  
事の覚悟と決断をと  
いうことを要望しま

そのほかの質問項目は、公債  
特例法案未成立による影響、経  
済対策、生活再建支援、成年後  
見制度、いじめ対策、農業再生

支援、エネルギー政策、隣国と  
の交流、神々の国プロジェクト  
事業についての質問でした。

経済対策	
基金積立額(H20～)	698 億円
昨年度までの取り崩し額	462 億円
(参考) 24年度当初予算	5277 億円
内民生費(福祉関係)	515 億円
緊急雇用創出事業	
延べ 9100 人雇用創出	
ふるさと雇用再生事業	
延べ 1109 人雇用	
実人員 402 人(内雇用継続 274 人)	



# コンパクトシティ 省エネのまちづくり

8月29～30日にかけて建設環境委員会の省エネの取り組みについての調査で富山県に出かけました。

## 環境モデル都市・富山

最初に富山市へ伺い環境モデル都市の取り組みについて調査しました。富山市ではコンパクトシティ戦略による二酸化炭素削減計画を進めています。その市民・企業・行政が一体となった拠点集中型のコンパクトなまちづくりに公共交通を軸として取り組んでいます。

市内の拠点と拠点を公共交通で結び、街中への住み替え、エコ通勤、エコライフの取り組みを進めています。ライトレールの整備や自転車の共同利用システム、小水力あるいは太陽

光発電、木質バイオマスなどの新エネルギーの普及促進、廃棄物の有効利用など低炭素都市の実現に向けて様々な取り組みをしています。

震災により道路幅を広く取った都市計画が進められていることや廃止となったJR線の活用、路面電車の環状線化など富山市の特質を生かした取り組みがなされています。そのライトレールランジ



市内に置かれている共同利用の自転車



市内を走るポートルム

ット(LRT)に取り組み富山ライトレール(株)に出かけ、調査しました。富山市の環境モデル都市の取り組みのひとつとして、JR富山港線廃止にあたり基盤整備は市が行い、運営を第3セクターで行っています。鉄軌道を活用し車両を7台の低床車両(通称ポートルム)に換え、一部路面電車として市街地に乗り入れています。そして、駅数を9駅から13駅に増やし、これまで減少しつつあった便数を3倍に増やしたことで乗客数は倍増しています。また、私鉄が路面電車を走らせている軌道に加えて市が一部軌道を整備し循環線を作り、

そこへも市が3台の低床車両(通称ポートルム)を走らせています。将来は整備される新幹線駅でそれらの線をつなげていく予定になっているようです。公共交通を整備することで高齢者や学生、通勤者の移動手段を確保し、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

実際にポートルムに乗ってみました。揺れが少なく静かな走りです。終点の岩瀬浜は、北前船で交易が行われた地で歴史を生かしたまちづくりが進められ、観光と組み合わせ住民以外の利用も増えています。

## エコ温泉リゾート

次に宇奈月町へ移動し、できき宇奈月プロジェクトの取り組みについて調査しました。できき宇奈月プロジェクトは、小水力発電をはじめとした再生可能エネルギーとEVバスによる公共交通を導入し、先進的なエコ温泉リゾートを目指すとともに、エネルギーの地産地消により自立した地域づくり

を進める事業です。電気自動車や電動自転車のレンタル事業、電気自動車、EVバスの開発、小水力発電、温泉熱を利用した温度差発電などの実証実験を行っています。

このプロジェクトには地元建設業協会、自治振興会、商工会、旅館組合、県内の大学などで実行委員会を作りそれを官庁、大学、企業、団体が支援しています。そして何よりも中心となるこの実行委員会会長の大橋聡司さんのリーダーシップがこの事業を進めていく力になっているのが感じられました。



温泉街内を電気車で走るバス